

研修参加報告書

平成29年11月7日

会派名 リフォームの会
会派代表者 山 登志浩

(参加者：山 登志浩)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	平成29年5月22日(月曜日)
研修時間	14時00分～15時30分
研修場所	川西市総合センター視聴覚室
研修内容	人権講演会 デンマークという国について (講師：ケンジ・ステファン・スズキ氏)

研修参加報告書

①

年月日	平成29年5月22日（月曜日）
研修時間	14時00分～15時30分
研修場所	川西市総合センター視聴覚室
研修内容	人権講演会 デンマークという国について (講師：ケンジ・ステファン・スズキ氏)
■目的 社会保障制度が充実し、環境保護に力を入れて「世界で最も幸福な国」といわれるデンマークについて学び、自治体における子育て支援、教育、労働、エネルギー・環境政策などのあり方を考える。	
■内容（特記事項） 世論調査で「あなたは他人を信頼しますか」との問いに、デンマーク国民の約8割が「信頼する」と回答している。それゆえ、デンマークには、国のために何かをしたいと思う国民が大勢いる。国民間の信頼が国の豊かさの源泉となっている。 デンマークの教育は、10歳まではとにかくよく遊ばせることを基本としており、通信簿もなければ、進学塾もない。教科書の内容の暗記ではなく、内容を理解し、それをどのように役立てるか、実務に生かすかに重きが置かれている。その結果、スカイプ電話を開発する人（高校中退者）が現れるなど、中高生でも起業する人が多い。また、留年や休学も珍しいことではない。 小学校から大学まで、教育費の自己負担がない。大学生には生活費が国庫から支給される。 デンマークのサラリーマンは、週37時間労働で残業なし。年休も6週間取得できる。一人当たりのGDPが6万ドルと世界最高水準で、人件費が極めて高い。職種別に労働組合が確立しており、人件費や労働時間を厳しく監視している。人件費を安く上げるとするのは古い発想だ。人件費が高い分、能力をフル活用して、成果を上げてもらおうと考えている。また、キャリア教育が充実しており、転職は当たり前。転職しないと収入が増えない。 デンマークは、オイルショックを教訓として、10年間に及ぶ国民的議論の末に、風力、バイオガス、バイオマスの利用を採り入れた。	

■所感

デンマークの社会保障には目を見張るものがあるが、背景には、国民同士、そして政府への厚い「信頼」が存在する。この点が日本と決定的に違う。日本では、これからの社会のあるべき姿について、政党間・国民間での議論がほとんど行われておらず、一定のコンセンサスを得るには程遠い状況にある。「北欧に倣い、日本も教育や福祉を充実させるべきだ」と主張しても、「信頼」のないところで共感が得られるはずもなく、机上の空論にほかならない。

昨今、日本のどこの自治体も、生産年齢人口の減少、高齢化という課題を突き付けられている。自治体の政策議論においては、目先の損得に右往左往するのではなく、より幅広い合意形成に力を注いでいかなければならない。

デンマークは移民・難民を多数受け入れてきた。しかし、外国人の多くが従事する業務においても人件費を安く抑えることは認められていない。昨今の日本では、労働者の人件費を抑えて利益を上げることが横行しているが、逆に、それが生産性を低下させ悪循環に陥っているのではないかと危惧する。